

令和3年6月1日

第47号

早稲田大学

## 武蔵野稲門会報



発行 武蔵野稲門会

〒180-0021

武蔵野市桜堤2-13-1-226

諸江 昭雄

TEL 0422(54)0873

## 会長からみなさまへ

武蔵野稲門会 会長 諸江 昭雄 (1963・法)

もろえ あきお

武蔵野稲門会会員の皆さま、お元気でいらっしゃいますか。私も元気です。さて、昨年来未曾有の世界的規模で始まったコロナウイルスの感染拡大は、今なお東京2020オリンピック・パラリンピック開催を控えた我が国においても猛威を振るい、未だ収まる気配がありません。

当会もワクチン接種によるコロナ禍の早期終息に望みを託して令和3年度(2021年度)総会の開催を準備してきましたが、行政の勧告、母校早稲田大学の通達指示により昨年と同様に開催を断念し、下記の通り「書面審議」とさせていただきます。平に伏してお詫び申し上げますとともに、ご理解賜りますようお願いいたします。

武蔵野稲門会の活動は多くの同好会により支えられておりますが、令和2年度は幾つかの同好会を除いて厳しい集会自粛要請の下、不活発に終始しました。一方で、母校の後輩の中には厳しい生活環境の中、学業を断念せざるを得ない者も続出し、この支援・救済のために貴重な会費の一部を早稲田大学サポーターズ倶楽部への寄付として拠出させていただきました(皆さま延54人からのご芳志663,000円を含めて1,150,000円。総会議案1号 1/2・2/2 をご覧ください)。ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後に、役員一同が頭を振り絞って考えたのが、会費の使い道の一つとして会員の皆さまに早稲田大学公認のワセダカラーマスクをお贈りすることでした。これを着用して当会を、母校早稲田大学を力強くご支援いただければ幸いです。

どうか会員の皆さま、お体に気を付けて来春の集まりには元気なお姿を見せてください。

感謝合掌 (4月25日執筆)



## 武蔵野稲門会 令和3年度総会「書面審議」のお知らせ

6月6日(日)に予定しておりました「総会」は早稲田大学の通達指示により一堂に会しての審議を見送り昨年同様の「書面審議」に代えることになりました。

## 令和2年度会計報告／令和3年度 予算 「コロナ禍のため決算・予算とも一変しました」

財務会計委員会 委員長 すぎはら てつお 杉原 鉄夫 (1966・理工)

### 令和2年度 一般会計決算

[収入]: コロナ禍による活動停止を受けて、組織強化補助費が200千円(千円単位の概数。以下同)減少。会報46号に広告を掲載できず40千円の減収。新年会見送りで310千円の減収。一方で、コロナ禍学生支援のため会員の皆さん延べ54人から663千円のご芳志をいただきました。

[支出]: 近隣稲門会総会祝金は29千円と予算比17%。早稲田大学サポーターズ倶楽部支援(寄付)は予算比20倍の1000千円を拠出。稲門祭グッズ・地域貢献(マナーキッズ)は活動なし。事務費用は4割以上減って82千円。同好会活動補助・新年会も支出なしでした。

[収支]: 収入は予算並みの2266千円、支出は予算比6%増で、単年度収支は155千円の赤字。次期繰越金は1041千円になりました。

### 同 特別会計決算

早稲田大学サポーターズ倶楽部支援(寄付)に150千円を支出。一般会計と合わせて1150千円を拠出しました。

### 令和3年度 一般会計予算

[収入]: 活動実質停止のため年会費2千円を無料あるいは半額にしてはと提案しましたが、会長代行会の結論は「一度下げると戻しにくい。三多摩の稲門会の会費は武蔵野より高いところが多く迷惑では…」。減額は見送りました。コロナ禍支援ご寄付は50千円と控えめです。皆さまのご協力をお願いします。

[支出]: サポーターズ倶楽部寄付は大きく減らして150千円。早稲田マスクを全会員に配ります。1枚1200円と市場価格の10倍以上ですが早稲田マークが入る上に、母校の後輩支援に間接的ながら貢献できるとのこと。山口光朗会長代行のご尽力に感謝申し上げます。

[収支]: 単年度収支は312千円の赤字。次期繰越金は729千円になります。

### 同 特別会計予算

地域貢献活動の要になるマナーキッズ活動を再開できるよう32千円の、会員名簿発行に50千円の支出を計上しています。

## [ポスティングは楽しい]

やなか たつお  
谷中 竜雄 (2001・法)

ポスティング、やった事がある方は意外に少ないのではなかろうか。いやいや、何遍もやってるよという方も、暫しお喋りにお付き合い願えれば。

私のポスティングは、前日から始まる。Google Maps アプリに表示される位置情報を、市の防災情報マップに書き込んでいく。そして、配達順を考える。当日、幾つかの封筒と、前日書き込んだ防災情報マップを持って、計画したルートに踏み出す。封筒に記されている住所は、どれも自宅の近所。一番遠くても精々徒歩20分程。が、全て巡ってみると数時間かかる。そして、こんなにも通っていない道がある事に驚く。でも、考えてみればそれはごく当然の事。幅のある、車も走る様な道なら通っていても、住宅街の奥まで伸びていく細長い道は、住人以外殆ど通らないに違いないのだ。

日常から数歩踏み出すだけで、開ける非日常の世界。庭先の花々や偶に通る猫も何だか秘密めいていて、胸が高鳴る。近所で味わえる非日常のスリル、もしまだなら是非貴方にも味わって頂きたい。今手にされている会報のポスティング、それが扉を開く鍵です。



### 私の新型コロナ自粛生活 その2

#### コロナ禍九句

すずき いくお  
鈴木 育男 (1954・文)

コロナ  
 疫病去れ声震はせる年男  
 溜息の形に露の玉太る  
 蛸ひぐらしや帰ってくるなと言はれても  
 ねこじやらし諦めきれぬ旅支度  
 コロナ禍や大雪といふ紐育(孫心配)  
 冬深し南無コロナ禍の赤提灯  
 数独の解けず冬陽の頼りなく  
 変異種の迫り来ニユース日向ほこ  
 夏休み帰って来ない孫ふたり

#### 「弁護士生活 この1年」

ほり ゆういち  
堀 裕一 (1980・法)

弁護士の仕事に変化はないだろうと思われる方は多いと思う。実際、飲食店に比べればそうと言える。だが、主要な活躍の場である裁判所は一変した。昨年春の緊急事態宣言中(4月7日～5月25日)、既に入っていた全ての裁判期日は取り消され、次の日程がいつまで経っても決まらない。甚だしくは、「不要不急の破産申立は控えて欲しい」といった笑い話にならない裁判所からのお達しがあった。不要不急でない破産があるか？死にそんな患者がいても、病院に連れてくるなと言うようなものである。宣言が明けて、そろりと裁判は動き出したが、これまで毎週使っていた法廷が2週間に1回となり、現在も進行が大幅に遅れている。利用者にとって困ったことである。

夜の会合が一切なくなり、時間ができた。その分溜まっていた仕事が掃け、Zoomでの研修三昧となりとても勉強・充電ができた。

生活面では、毎日家で食事をするようになり、妻から文句を言われている。(あまり言えないが)都外に遠慮せず旅行にゴルフと、但し車で出かけている。

#### 「Zoomで親孝行」

きたはら じょう  
北原 譲 (1984・政経)

80代半ばの両親が諏訪の実家で二人で暮らしている。私は年数回、高校同窓会役員会に帰省し、顔を見せることが唯一の親孝行だ。ところがコロナ禍、長野県は都会人との接触に厳しく、接触すると各種サービスを2週間

受けられない。そんな中、昨夏、親父が室内で転倒、大腿骨骨折で手術、リハビリで2ヶ月あまり入院。それでも帰省できない。GWも諦めた。親父は電話嫌いで出ないが、お袋と話して、親父の好物を宅配手配する。佃煮、パン、意外な好物を知る。4月に甥が郷里の市役所に就職し、私の両親と同居、Zoomによる顔合わせが1年振りに実現した。親父「譲、元気そうだな。オレは元気だ。脚もだいたいいい」私「自営の乳業メーカーの牛乳をたくさん飲んでたはずなのに骨折とは」親父「35歳で廃業、そのあとは大手の薄い牛乳だから、ダメだった」親父の負け惜しみに、Zoom画面の隣で、牛乳嫌いのお袋は微笑んだ。

#### 『早朝ウォーキングで体力・気力充実』

もろえ あきお  
諸江 昭雄 (1963・法)

新型コロナウイルス襲来後、することが無くなって始めたのが近所の小金井公園早朝ウォーキングでした。昨年4月7日に発令された7都道府県の『緊急事態宣言』を受け昼間の行動を極力避け運動不足解消の為毎日8000歩、5～6kmを目途に始めましたが雨の日を除いて現在まで続けています。サボらないためにウォーキング風景を毎日フェイスブックに投稿しフレンド(FBF)も増えてコロナ禍ストレスの解消に役立ちました。皆さんも如何ですか。



朝霧に煙るザ・公園内のサイクリングロードと散策路の交差点

#### ご冥福をお祈りいたします

古川 百合さん(1943・文)2021年1月14日 102歳

長らく都立西高校で英語を教えられ、退職後しばらくして入会なさいました。音楽がご趣味で当会の音楽関連の催しにもよく参加されておられました。亡くなる直前まで普通の生活をなさっていたとのこと。ご冥福をお祈りいたします。

同好会報告 5月現在 稲穂会 川柳・俳句 テニス部会が 活動を行っています

テニス部会々員に多謝

かくた しょうぞう 角田 正三 (1963・政経)

コロナ禍のため7か月に及ぶ活動休止の後、昨年9月より月3回のペースで練習会を行っています。

最近私は「真昼の決闘」とも呼ぶべき素晴らしい激戦を経験いたしました。昨年12月5日 気温7.7度 小雨という悪天候の下集まったメンバーは74歳-84歳の「テニス大好き人間」4人です。第1試合は武蔵野在住組 対 練馬在住組。結果はゲームカウント6-6、タイブレーク9-7で練馬組の逆転勝利。第2試合は年長組(合計166歳)対 年少組(合計149歳)。何と6-4で年長組の勝利。悪天候も気にかからず、テニスの魅力に酔い痴れた2時間でした。この年齢にしてとことんテニスを楽しめるとはテニス部会の皆様に大感謝です。 会員の皆様 一緒にいかがですか。



川柳稲穂会 老化報告

おおた すけあき 太田 資暁 (1965・商)

コロナ、コロナで巣籠している間に一年が経ってしまいました。そんな中で私の頭の劣化も甚だしく、人の名前は出てこないし、易しい漢字を忘れるし、大切なズーム会議を忘れて散歩に出るし、会話の無い家内とたまに話すと同時に違う話題を平気で話していたりで、全くヒドイものです。

ところが自分だけかと思っていたら、今回川柳の事務局をやってみて、他の方々も同じ傾向なので嬉しくなりました。即ち例えば、前回と同じ句を送って来たり、兼題を間違えたり、自由句は三句なのに二句しか送って来なかったり、締め切り日と開催日を間違えたり、締め切り日をリマインドしても送って来ないので電話してやっと送って来たり、いずれも今まであまり無かった現象です。ただ一人、リマインド無しで正確に送って来た方は八十七歳の小美濃先輩だけでした。小美濃先輩曰く「すぐに処理しないと忘れてしまうから」と、誠に含蓄のある言葉でした。また、星田先輩からはMCI(軽度認知機能障害)という言葉をお聞きしましたが、考えてみればメンバーは二歩手前くらいでしょうか。

会の当日は御殿山コミセンで広い会議室の窓を開けて、エアコンをつけて、マスクして大声で談論風発。政治家も官僚もマスコミもメッタ切りにして誠に痛快で留飲が下がる会合でした。こうやって対面で話す全員が若返ったようです。人間は五官を使って顔を見て肉声で話すことが如何に重要か痛感した日でした。

川柳「稲穂会」

(令和三年四月九日)

- 「兼題」(亭主・あるじ)
- 「孫たちは 家内があるじと 仰ぎ見る」 太田資暁
- 「自由句」
- 「春の星 平均余命を 数えけり」 星田正風
- 「外出が 怖いと冷凍 ばかり食う」 諸江昭旦
- 「村度に 疲れ果てたか慰労会」 田坂忠俊
- 「リモートも手慣れた姿新学期」 片岡冬里
- 「ステイホーム すればするほど フレイル化」 太田資暁
- 「外出は不要不急と酒浸り」 市川 毅
- 「文春に書かれてみたい気もするが」 小美濃隆
- 「打ってよし 投げても良しの 二刀流」 小坂 強
- 「目覚ましを布団でくるむ朝寝坊」 森川紀一

俳句「稲穂会」

(令和三年四月二十一日例会 本町コミセン)

- 「おかつばの目玉くりくりシャボン玉」 ひろはる(池田宏治)
- 「遠い思い出」
- 「目刺し焼く後ろ姿の妻老いぬ」 つよし (市川毅)
- 感謝
- 「フレッド・アステアのタップ軽やか燕飛ぶ」 秋雲 (川島隆慶)
- 「アステアは凄いい」
- 「春一番それは私と球音と」 麟太 (川崎八大)
- 球春到来
- 「綿シャツのしわに映れる若緑」 さはる (栗間早春)
- 「コロナ下の緑の癒し」
- 「花びらを来て一花なき奥の院」 幸子 (中村幸子)
- 華やかさと深閑
- 「笥や黒子・白子と堀り分けり」 正風 (星田正)
- 笥で一盃

編集後記

「疫病は100年に1度人類を襲う」とのことですがこの新型コロナ騒動はいつ終わるのか、ワクチンはいつ打てるのか、と待っていました。しかし、日本の国力の無さを思い知り、政治家の詭弁に疲れ、今や「終わる時には終わるだろう」という境地に達しました。いつの日か皆様にお会いできるのを楽しみにいたしております。(徳田)